

特集②サプライチェーン変革の推進

コア技術を活用した高品質なものづくり

持続可能な調達と安定した供給力

品質第一の生産体制と資源循環技術

あらゆる食シーンへの価値提案力

特集③「サラダのリーディングカンパニー」として、世界の食と健康に貢献する



持続可能な調達と安定した供給力

加藤 英巳

執行役員
生産副本部長

パートナーとの「対話と協働」で築く 持続可能な調達基盤と食の未来

「良い商品は良い原料から」という想いのもと、安全で安心な価値をお届けし続けるためには、原料の「調達」から「製造」、そして「物流」に至るサプライチェーン全体の進化が不可欠です。製造現場の効率化も、確かな原料供給とお客様へつなぐ物流網があってこそ真価を発揮します。特に「物流2024年問題」などの社会課題に対し、競合の枠を超えた「共同配送」の推進は、安定供給を支える生命線です。

調達・生産・物流が三位一体となり、食のインフラを維持することが私たちの責務です。私たちはサプライヤーや物流会社の皆様を、共に未来を創るパートナーと位置づけています。気候変動や労働力不足といった複雑な課題は自社単独では解決できません。だからこそ「現場・現物・現実」を直視し、対話と協働を徹底していきます。国内外のパートナーと知見を共有し、持続可能な食の未来を共創していきます。

持続可能な調達と推進プロセス

当社グループは、「持続可能な調達のための基本方針」を定め、サプライチェーン全体で社会的配慮を実践しています。基本方針の実現に向けて、「キューピーグループサプライヤーガイドライン」を定め、相互理解のもと、お取引先との共存共栄をめざし、以下のサイクルを運用しています。

キューピーグループサプライヤーガイドライン

https://www.kewpie.com/sustainability/pdf/sustainability_20250116_supplier_guidelines.pdf

私たちの Change & Challenge /

お取引先と共に、持続可能な未来を創造する

新設の「サステナブル調達推進担当」を務めています。広報・サステナビリティ本部と連携し、より現場に近い部門でお取引先の皆さまと協働できることにやりがいを感じています。私の挑戦は、共通のゴールを目指す「パートナー」としての絆をさらに深めていくことです。2026年、人権・労働環境に関する国際的なプラットフォーム『Sedex』を導入しました。セルフアセスメント形式のアンケートを対話の材料として、お取引先の皆さまと共に、持続可能な未来の創造に挑戦していきます。

鷲巣 弘明
キューピー株式会社
生産本部

お取引先との対話の強化

持続可能な調達の実現に向け、お取引先との「対話」と「協働」を軸としたエンゲージメントを強化しています。その推進を確実なものとするため、新たに本社の生産本部に「サステナブル調達推進担当」としてサプライヤーエンゲージメント専任の部署を設置しました。

私たちの活動の基盤となる「サプライヤーガイドライン」は、お取引先との相互理解を深め、共に課題へ立ち向かうための重要なツールです。アンケートや対話から得られた声を施策に反映し、一方的な要請ではなく共に成長できる関係性を築きます。本社の専任部署が中心となり、「現場主義」の精神やグループ各社の先行事例を横展開することで、バリューチェーン全体での人権・環境課題の解決を加速させます。

当社グループは世界中の生産者と手を取り合い、持続可能な食の未来を共に創り上げていきます。

特集② サプライチェーン変革の推進

コア技術を活用した高品質なものづくり

持続可能な調達と安定した供給力

品質第一の生産体制と資源循環技術

あらゆる食シーンへの価値提案力

特集③ 「サラダのリーディングカンパニー」として、世界の食と健康に貢献する



社会課題解決に向けたサプライヤーとの共創

サプライヤーとのパートナーシップ構築は、組織的な対話にとどまらず、産地という「現場」においても深く浸透しています。例えばアヲハタでは、理想のフルーツ原料を調達するため、サプライヤーを「互いに高め合う仲間」と位置づけています。専門技術者が現地へ赴き栽培技術を共有するなど、中には40年以上に及ぶ深い信頼関係を築いているケースもあります。この長年のエンゲージメントは、高い品質の確保はもちろん、気候変動など予測不能な事態に対する強靱なサプライチェーンの構築に直結しています。今後も世界中のパートナーと連携し、最高品質の原料を安定的に調達していきます。



サプライヤーとの品質向上の取り組み

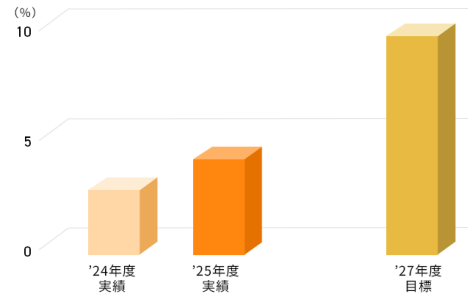
アニマルウェルフェアに関する考え方と取り組み

当社グループにとって鶏卵は、マヨネーズやタマゴ加工品の大切な原料です。持続可能な鶏卵の調達において、採卵鶏のアニマルウェルフェアは重要な課題であり、専門委員会を設け、その向上に取り組んでいます。

加えて、当社グループはケージフリー飼養卵の生産を拡大する必要性を感じており、国内の養鶏事業者への支援や、ケージフリー飼養卵の普及・市場づくり・拡大にも取り組んでいます。海外では、各国・地域の基準や社会環境に合わせた対応を進めており、米国に続いて欧州でもキューピーブランドの商品に使

用する卵原料は100%ケージフリーのものに切り替えました。引き続き、サプライチェーンやバリューチェーンに関わる方々や行政とも連携して、アニマルウェルフェアの向上に取り組んでいきます。

グローバルで製造販売しているキューピー マヨネーズのケージフリー飼養卵の使用率



アニマルウェルフェアに関する考え方と取り組み

<https://www.kewpie.com/sustainability/procurement/promotion/#sec08>

調達物流の最寄化によるCO₂削減と安定供給の実現

持続可能な社会の実現に向け、サプライチェーン全体で環境負荷低減に取り組んでいます。その一環として推進するのが、原料調達における輸送距離の短縮と物流効率の向上です。

これまで遠方から輸送していた主要原料について、品質基準を維持したまま、より生産拠点に近い調達先への切り替えを順次進めています。この「調達の最寄化」を進めることで、輸送工程で発生するCO₂排出量を年間数十トン規模で削減するとともに、物流リスクの低減も図っています。

今後もお取引先との強固なパートナーシップのもと、環境配慮と効率的な調達体制を両立させ、安全・安心な商品を安定してお届けしていきます。

共同配送におけるASN入荷検品レスの実現 サプライチェーンイノベーション大賞受賞

当社グループは、加藤産業株式会社、株式会社キューソー流通システムと共に、既存の「ASN (事前出荷情報) 入荷検品レス」の仕組みを複数メーカー共同配送で運用するために標準モデル構築を進めました。この取り組みが2025年サプライチェーンイノベーション大賞を受賞しました。

本取り組みは、物流事業者がASNを一括送信する標準システムを整備し、参画メーカー側のシステム対応を不要にした点が最大の特徴です。これにより、発荷主・着荷主の組み合わせごとに発生するASN入荷検品レスの「システム対応」「運用調整」が省略されます。1運行当たり従来150回必要だった「単品目視検品」が15回の「パレットスキャン検品」へと簡略化され、荷下ろし等の作業時間の約93.4%削減に成功しました。

併せて、受発注運用の見直しにより、1運行当たりの納品数量を15%向上させるなど、ドライバーの荷役負担軽減と積載効率の向上を両立させています。

「物流2024年問題」への対応が急務となる中、この仕組みを業界標準のプラットフォームとして普及させ、業界標準の共同配送モデルの実現に向けた全体最適な物流インフラの構築を加速させていきます。

